

自ら**学ぶ力**をはぐくむ
豊かな**心**をはぐくむ
健康な**体**をはぐくむ
郷土**愛**をはぐくむ

県北プライド



「夢をかなえる教育」「笑顔あふれる学校」をめざして

校長 阿部 央

県北中学校の生徒の皆さんへ

新型コロナウイルス感染症拡大を防止するため、一斉臨時休業が延長されています。みなさんはどのように過ごしているのでしょうか。この状況をどのように感じているのでしょうか。

この状況がいつまで続くのかと不安に思っている人もいるでしょう。もしかすると遠い東京や北海道、外国での出来事のように感じている人もいるかもしれません。今、日本全体がそして世界の多くの国がまさに緊急事態になっていることをしっかりと認識してください。緊急事態であることを踏まえた行動をとってください。臨時休業延長は皆さんの命を守ること、その先にある家族や友人、友人の家族、お年寄りや基礎疾患をお持ちの方々の命を守るための措置です。私たちに今できることは、新型コロナウイルスに感染しないように、また感染させないように行動することです。

通常であれば、ほとんど毎日6時間の授業がありました。今はそれができません。しかし、少しずつ通常の姿に戻れるように準備していくしかありません。先生方は臨時休業中の学習課題や登校日に行う授業の準備に一生懸命に取り組んでいます。登校できない日は適度に休憩を取りながら、準備された課題や自分なりの勉強を毎日継続してください。

インターネットやテレビでは様々な情報が飛び交っています。新型コロナウイルス感染症は昨年未だにその集団発生が報告されたということですが、その後わずか4か月間で世界中に感染が広がり、これまでに世界全体の感染者数が370万人、死者が26万人を超えています。未だ終息していないことから、今後どのような経過をたどるのかもわかっていません。専門家の方々がその性質の解明や治療のためのワクチン開発に取り組んでいる状況です。治療のために最前線で日々対応にあたっている医療従事者、研究者、行政等の方々が自らの命を懸けて取り組んでくれています。

私は国道4号線を通って県北中学校に通勤しています。ある時、国道の電光掲示板に表示されているメッセージに気が付きました。「物流を支える皆様ありがとうございます」と書かれています。県北中学校のすぐ近くにもあります。道の駅国見あつかしの郷の中にも、温かいメッセージが掲示されています。電光掲示板のメッセージは原発事故を経験した福島県ならではのオリジナルのメッセージだそうです。自宅で過ごす人が増えたことによって宅配や運送関係の方々の仕事量は大きく増えています。この方々の仕事はテレワークで済ませることができません。自身の感染を心配しながらも厳しい条件の中で物資を運んでくれています。物資を運んでくれる人がいなくなったら、私たちの生活は立ち行かなくなってしまいます。



皆さんの記憶にはあまり残っていないかもしれませんが、9年前の東日本大震災とこれに伴う福島第一原子力発電所事故後、しばらくの間、「福島には近寄るな!」「福島から来るな!」といった偏見や差別がありました。物流に携わる方々がどれほど大変だったろうと思うと、唯々頭が下がります。私は震災の年を挟んで2年間、福島県教育委員会に勤務していました。原発事故後しばらくしてから、相双地区の中学生の保護者と思われる方から苦情の電話をいただきました。中学生の野球の県大会で相手校の応援者から「放射能は帰れ!」という罵声を浴びたとのこと。相双地区の人たちは放射能ではありません。緊急事態とはいえ、同じ相双地区出身の人間として、とても悲しい思いをしたことを思い出します。

私たちのあまり気が付かないところで一生懸命に力を尽くしてくれている人や、その家族を差別したり偏見の目で見つけてしまっている人が世の中にいるというニュースを耳にすると、9年前のあの苦情の電話を思い出してしまいとても悲しくなります。他の人を差別したり偏見の目で見るとは、相手を傷めるだけでなく自分自身も傷つけていることになります。自分のプライドを傷つけることになります。なかなか外に出ることもできず、いろいろ我慢しなければならないことが多くて大変だろと思うと思います。でも、いろいろなことを我慢して生活できている今の自分にプライドを持ってほしいと強く願っています。